

教員の働き方改革を考える

～コロナ禍を乗り越えよう～



内田良 (名古屋大学准教授)

× 嶋崎量 (日本労働弁護団常任幹事) × 工藤祥子 (神奈川過労死家族の会代表)

2020年9月22日(火・祝)

13:30～15:00 (予定)

Zoom・オンラインイベント

【参加費】 無料 【参加】 先着300名 (どなたでも参加可能です)

【主催】 神奈川労働弁護団 【後援】 連合神奈川

～教育現場の声・取組を社会に伝えたい～

公立学校教員の長時間労働が社会問題となっている中、現状は、**コロナ禍の混乱**により、現場の教員にさらなる負担がかかっています。また、コロナ禍の混乱の最中である2020年4月からいわゆる**上限指針**が施行され、正確な**労働時間(在校等時間)把握**や、**原則・月45時間以内の残業時間の規制**がスタートしていますが、その運用には課題も多く各現場での取組が期待されています。さらには、2019年12月に労働組合の反対を押し切り強行された1年単位の**変形労働時間制**の導入を可能とする給特法改正を踏まえて、各地域で、条例による変形労働時間制導入を阻止する対策も求められます。教員の長時間労働は、**教育の質**に直結する問題であり社会全体の課題です。このシンポジウムで、多くの方と、このテーマについて考えたいと思います。

【お申し込み先】

ココから → <https://bit.ly/2Ek7LyG>



お問い合わせ

TEL 045 222 4401

神奈川総合法律事務所

担当：弁護士 石渡豊正



* 神奈川労働弁護団ホームページからもお申込可能

〔登壇者・ご紹介〕

◆内田良

名古屋大学大学院教育発達科学研究科准教授。専門は教育社会学。

学校リスク(スポーツ事故、組み体操事故、転落事故、「体罰」、自殺、2分の1成人式、教員の部活動負担・長時間労働など)の事例やデータを収集し、隠れた実態を明らかにすべく、研究をおこなっています。

また啓発活動として、教員研修等の場において直接に情報を提供しています。

ヤフーオーサーアワード2015受賞。消費者庁消費者安全調査委員会専門委員。著書に『学校ハラスメント 暴力・セクハラ・部活動—なぜ教育は「行き過ぎる」か』(朝日新書)、『ブラック部活動』(東洋館出版社)、『教育という病』(光文社新書)、『柔道事故』(河出書房新社)、共著に『迷走する教員の働き方改革 変形労働時間制を考える』(岩波ブックレット)など。

◆嶋崎量

弁護士。神奈川綜合法律事務所所属。日本労働弁護団常任幹事、ブラック企業対策プロジェクト事務局長、ブラック企業被害対策弁護団副事務局長など。

主に働く人や労働組合の権利を守るために活動しています。

著書に『5年たったら正社員！？—無期転換のためのワークルール』(旬報社)、共著に「迷走する教員の働き方改革 変形労働時間制を考える」(岩波ブックレット)、『裁量労働制はなぜ危険か—『働き方改革』の闇』(岩波ブックレット)、『ブラック企業のない社会へ』(岩波ブックレット)、『ドキュメント ブラック企業』(ちくま文庫)など。Yahoo!ニュース個人オーサーとしても、教員の長時間労働について執筆しています。

2019年11月12日、衆議院文部科学委員会で変形労働時間制導入に関して参考人として意見陳述しました。

◆工藤祥子

全国過労死を考える家族の会公務災害担当、神奈川過労死等を考える家族の会代表、厚生労働省・過労死等防止対策推進協議会委員、元教員。

夫を過労死で亡くした過労死家族の立場、自身の元教員経験から、過労死・教員の長時間労働の問題について、活動しています。

2019年11月12日、衆議院文部科学委員会で変形労働時間制導入に関して参考人として意見陳述しました。

◆教員の労働組合の皆さんから、現場の状況や取組等についてご報告をいただく予定です！

